

セクシュアル・マイノリティにとって 暮らしやすい社会を

1 主 題 人権と共生のまちづくりについて考えよう

2 主題・教材について

現在の日本社会では、性は男性または女性のどちらかであり、異性愛が当たり前と捉えられている。しかし、近年の調査では、約5%がLGBTであると回答している（2012年、電通総研）。

性には、①「身体の性（sex）」、②自分の性別をどのように認識するかという「心の性（性自認：gender identity）」、③身体の性にかかわらず成長過程、社会生活の中で後天的に身に付け、外見に表れる「社会的な性（gender）」という側面があり、それらはいずれも「女性」または「男性」の二者択一ではない。①～③は、それぞれ独立して、人によって状況は様々である。

また、愛情や恋愛感情の対象がどうかという④性的対象（性的指向：sexual orientation）も人によって様々である。

しかし、①～③の性が一致し、④が異性であるという「異性愛者」が当たり前で、それ以外のセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）を否定するという社会の有り様が、当事者を苦しめているという現実がある。この社会において、当事者の多くは、自分を受け入れられなかったり、ありのままの自分を表現できなかったり、自分の将来をイメージできなかったりするという厳しい状況に置かれている。不安や孤独を感じるとともに、自身の存在を肯定的に捉えることができず、その自傷行為の経験率や自死を考えたことのある割合は高いものとなっている。

この教材では、まず、性の有り様を正しく理解することから始め、当事者がありのままにいられるような環境づくりに向け、学習を深めたい。自身の性や性に対する認識をふり返るとともに、人権尊重の視点に立ってセクシュアル・マイノリティの問題を考えさせたい。その過程において、セクシュアル・マイノリティの当事者自身の思いを聞き取る活動などから、互いを一人の人間として尊重し合うとともに、それぞれが自分らしい生き方を選択しようとする意欲を培いたい。

（関連教科・領域：社会、保健体育、総合的な学習の時間）

- ## 3 ねらい
- ・性の有り様は一人一人違って当たり前であることを知り、セクシュアル・マイノリティの存在を肯定的に捉える。
 - ・セクシュアル・マイノリティの当事者の生徒が、自己の存在を肯定的に捉える。
 - ・人権と共生のまちづくりについて、当事者の立場に立つことの大切さを理解する。

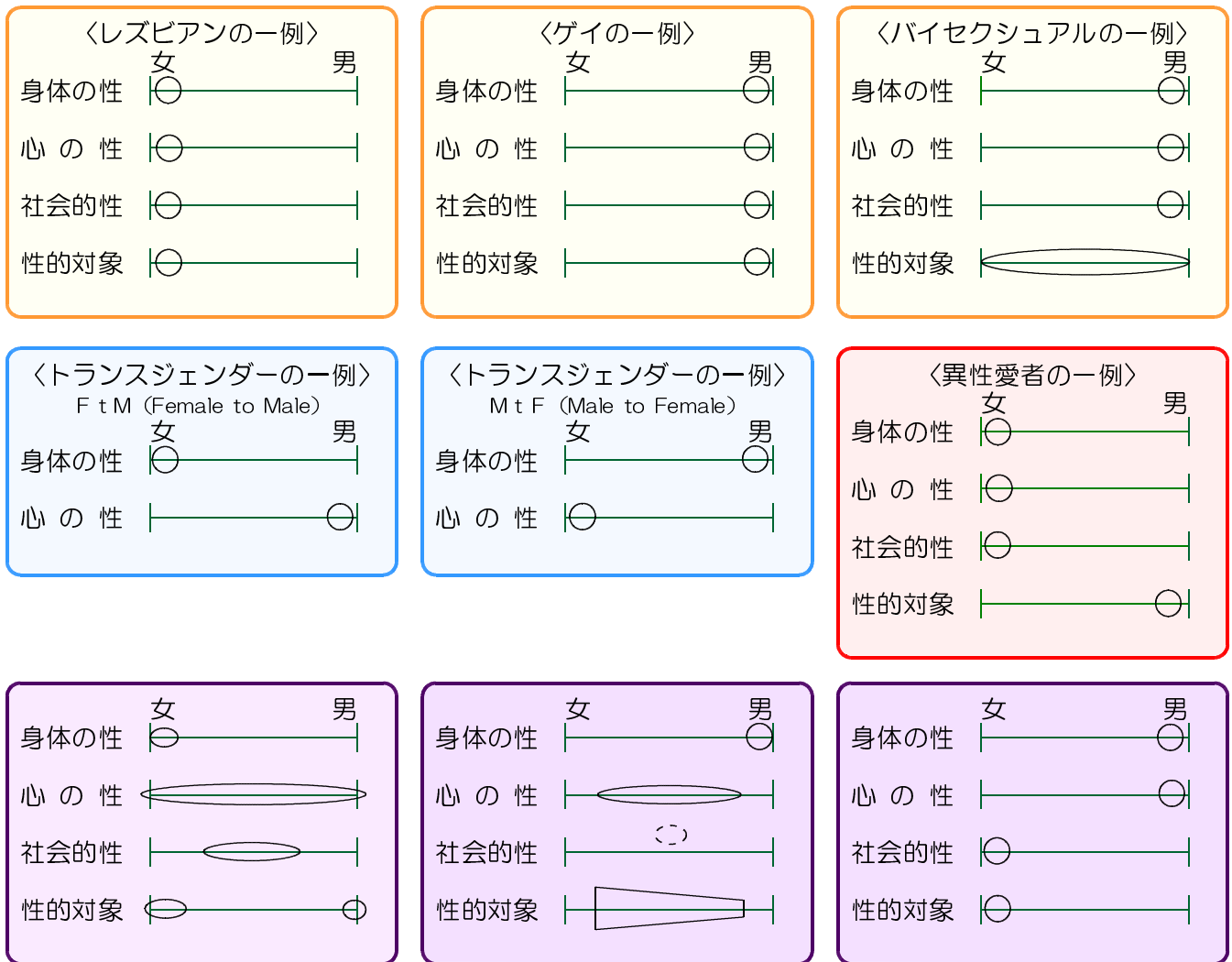
4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	多様な性の有り様について考えよう。		「1 Universal Declaration of Human Rights」
	<ul style="list-style-type: none"> ・セクシュアル・マイノリティ、LGBTQについて学習することを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人は、人間としての尊厳を有し、互いに平等という普遍的な価値観を共有するとともに、クラスにセクシュアル・マイノリティの生徒が存在すること、セクシュアル・マイノリティを肯定的に捉えることを前提に学習を進める。 	
展開	いろいろな生き方、性のあり方について正しく理解しよう。		資料参考
	<ul style="list-style-type: none"> ・本文（P.70）を読み、いろいろな生き方、性のあり方について理解する。 ・本文（P.70）の「LGBTQってな 	<ul style="list-style-type: none"> ・L、G、B、T、Qについて説明する。 ・「ホモ」「lez」「オカマ」など相手を侮辱・差別する言葉が出されることも考えられるので、言葉についての注意的 	

展	に？」を読み、正しい知識を身に付ける。	確に行う。	
	自分自身の性の有り様をふり返ってみよう。		
開	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の性の有り様をじっくりふり返り、ワークシート1に印を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1は他者には見せないことを伝える。 印を付けることを嫌がる生徒がいることも考えられるので、心の中で印を付ける方法でもよいと説明する。 指標（からだ＝身体の性、こころ＝心の性、外見＝社会的な性、好きな人＝性的対象）を順に説明し、自分がどうなのかを考える時間を与える。説明の際、指導者が自分の場合を例示することもよい。 付ける印の形は○に限られず、その大きさや付ける範囲も限定されないことを伝える。 ワークシート1の「女」「男」の捉え方は多様であるが、まずは自分の思うところに印を付けさせる。 セクシュアル・マイノリティの生徒が存在することを踏まえ、提出や発表はさせない。 記入後、資料を用いて、いろいろな人がいることを紹介する。単なる知識の伝達ではなく、それぞれの存在が決して間違いではなく、ありのままの存在で当然のことと捉えられるようにする。 	<p>ワークシート1</p> <p>資料</p>
	「ある青年の手記」を読み、願いを受け止めよう。		
開	<ul style="list-style-type: none"> 本文（P.71）の「ある青年の手記」から、この青年が、どのような辛い経験をしてきたのかを読み取る。 青年は、周りの人たちに、どのようなことを望んでいるのかを読み取り、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの人たちに、誰もが違って当たり前であり、同性愛者を肯定的に認めるようになってほしい、そして、誰もが自分らしく生きられる社会にしたいと願っていることに気づかせたい。 	
	「誰もが自分らしく生きられる社会」に向けて考えよう。		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート2に感想を記入し、意見交換により学びの共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考えることに終始せず、当事者の願いを直接聞き取るなど、より多くのことを知ることから、現実の問題として深く考えさせる。 グループで意見交換したあと、全体に発表して、考えを共有してもよい。 	<p>ワークシート2</p> <p>ワークシート2</p>

※ この教材の背景や写真のブーケには、性の多様性を象徴する「レインボー」が使われている。

《資料》多様な性の有り様



※ 実際には、性の有り様は多様であり、印の位置や範囲、有無は、人によって様々である。
 ※ 「レインボー」は性の多様性を象徴するものとして世界共通で使われている。

《参考》

差別的に使われる言葉

「ホモ」は男性同性愛者、「レズ」は女性同性愛者に対して、侮辱・差別的に使われることが多い。また、「オカマ」「オトコオンナ」などは、同性愛者やトランスジェンダー等に対して、いじめたり、侮辱したりする際に使われており、注意を要する言葉である。

「性同一性障害」という言葉

性同一性障害 (GID: Gender Identity Disorder) という言葉は、現状では最も流通している診断名 (疾患名) であり、トランスジェンダー全般に対して当てはまるものではない。
 また、2013年5月に改訂されたアメリカ精神医学会による「精神障害の診断と統計マニュアル (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, DSM)」では、GIDがなくなりGD (Gender Dysphoria) となった。これにより、医学用語としては「性同一性障害」に代わり「性的違和」の導入が進行しつつある状況である。

▶参考となる文献◀

性と生を考える会『教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック [改訂版]』
<http://say-to-say.com/>

◇自分自身の性をふり返ろう！

ありのままのあなたはどこにいますか？（自分の位置に印を付けましょう）

からだ（身体の性）	女	_____	男
こころ（心の性）	女	_____	男
外見（社会的な性）	女	_____	男
好きな人（性的対象）	女	_____	男

【ワークシート2】

◇セクシュアル・マイノリティの立場に立って考えよう！

◆レズビアンやゲイ（同性愛者）はどんなことに困っているでしょう？

Empty text box for response to the first question.

◆バイセクシュアル（両性愛者）はどんなことに困っているでしょう？

Empty text box for response to the second question.

◆トランスジェンダーはどんなことに困っているでしょう？

Empty text box for response to the third question.

◆どうすれば、すべての人が、ありのままに自分らしく生きることのできる社会になるでしょう？
自分たちにできることを考えましょう。

Empty text box for response to the fourth question.

◆感想◆

Empty dashed text box for reflection.

名前 _____